

しがCO₂ネットゼロ社会づくりについてのアンケート結果

県では、令和2年1月に しがCO₂ネットゼロムーブメント を宣言し、2050年に二酸化炭素の排出を実質ゼロにするCO₂ネットゼロ社会の実現に向けた取組を進めているところです。

しがCO₂ネットゼロムーブメント宣言について

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/ondanka/309038.html>

今後、条例や計画の改正・改定や施策の更なる推進を図っていくにあたっての参考とするため、アンケート調査を実施しました。

★調査時期:令和3年8月

★対象者:県政モニター 298人

★回答数: 247人 (回収率82.9%)

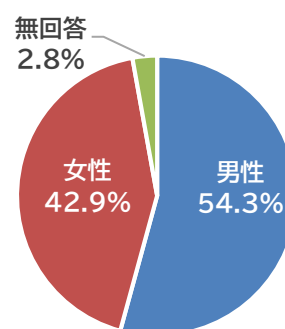
★担当課:総合企画部 CO₂ネットゼロ推進課

※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。

【属性】

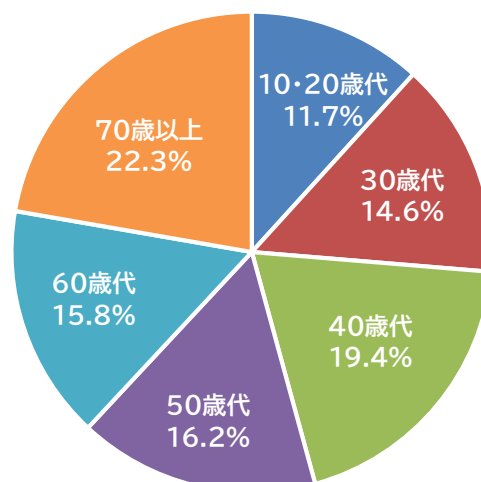
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	134	54.3%
女性	106	42.9%
無回答	7	2.8%
合計	247	100.0%



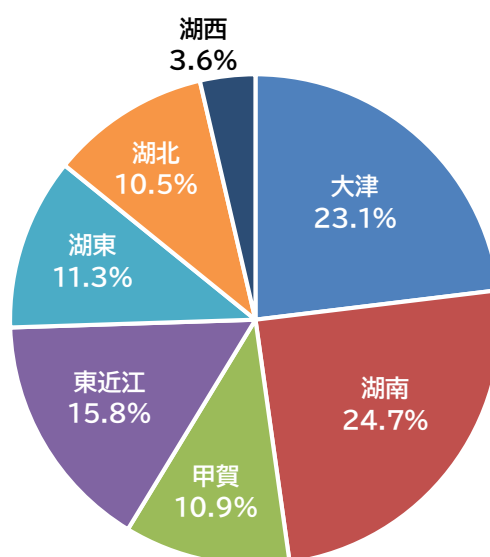
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	29	11.7%
30歳代	36	14.6%
40歳代	48	19.4%
50歳代	40	16.2%
60歳代	39	15.8%
70歳以上	55	22.3%
合計	247	100.0%



◆地域

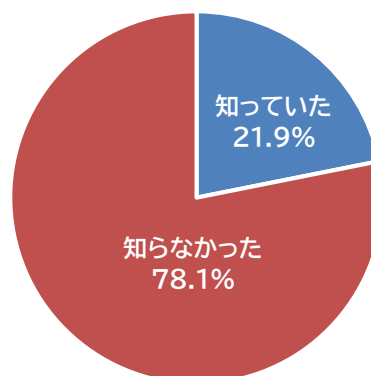
項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	57	23.1%
湖南地域	61	24.7%
甲賀地域	27	10.9%
東近江地域	39	15.8%
湖東地域	28	11.3%
湖北地域	26	10.5%
湖西地域	9	3.6%
合計	247	100.0%



問1 本県は令和2年1月に「県域からの 2050 年温室効果ガス排出量実質ゼロ」(しが CO₂ ネットゼロ)を宣言し、県ホームページで賛同者を募集しています。

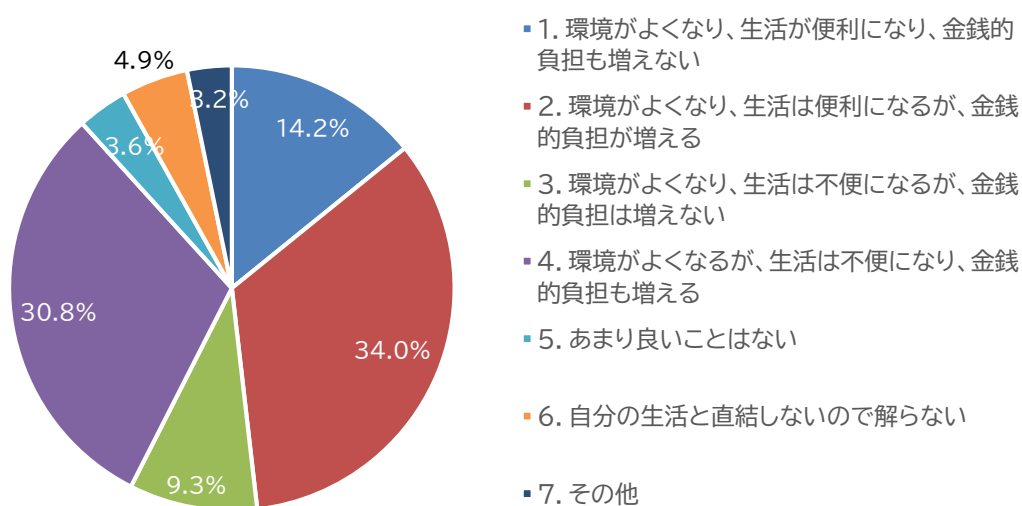
あなたは、この宣言を知っていましたか。(回答チェックは1つだけ n=247)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 宣言を知っていた	54	21.9%
2. 宣言を知らなかった(このアンケートで初めて知った)	193	78.1%
合計	247	100.0%



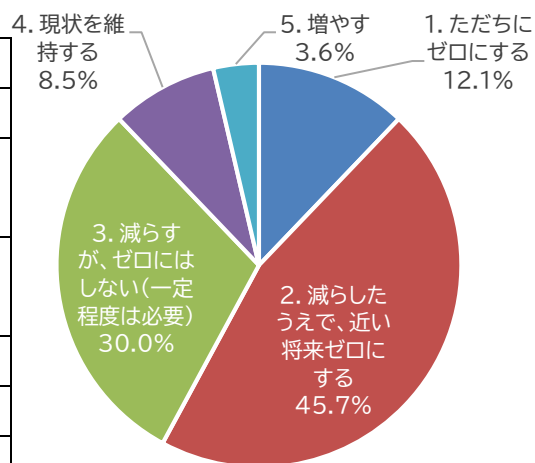
問2 CO₂ネットゼロ社会(温室効果ガスの排出と吸収の均衡が図られた社会)と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべますか。(回答チェックは1つだけ n=247)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 環境がよくなり、生活が便利になり、金銭的負担も増えない	35	14.2%
2. 環境がよくなり、生活は便利になるが、金銭的負担が増える	84	34.0%
3. 環境がよくなり、生活は不便になるが、金銭的負担は増えない	23	9.3%
4. 環境がよくなるが、生活は不便になり、金銭的負担も増える	76	30.8%
5. あまり良いことはない	9	3.6%
6. 自分の生活と直結しないので解らない	12	4.9%
7. その他	8	3.2%
合計	247	100.0%



問3 現在、国で検討されているエネルギー基本計画では、2050年に向けて一定程度、原子力発電（原発）に依存していくことが想定されていますが、原発への依存度を中長期的にどうしていく方が良いと思いますか。（回答チェックは1つだけ n=247）

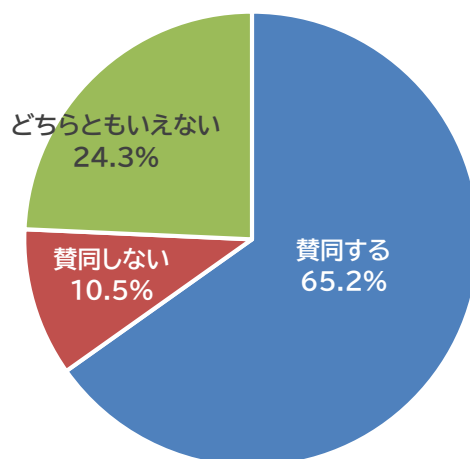
項目	人数(人)	割合(%)
1. ただちにゼロにする	30	12.1%
2. 減らしたうえで、近い将来ゼロにする	113	45.7%
3. 減らすが、ゼロにはしない（一定程度は必要）	74	30.0%
4. 現状を維持する	21	8.5%
5. 増やす	9	3.6%
合計	247	100.0%



問4 県では、これまで「しがエネルギービジョン」の基本理念に「原発に依存しない新しいエネルギー社会」を掲げ、原発に依存せず、環境（低炭素）、社会（災害リスクに強い安全安心な社会）、経済（地域内経済循環）の統合的向上を目指し取組を進めてきました。

CO₂ネットゼロ社会づくりに向けても、引き続き、原発に依存できない現状を踏まえ計画等の策定を進める方針ですが、これについてどう思いますか。（回答チェックは1つだけ n=247）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 賛同する	161	65.2%
2. 賛同しない	26	10.5%
3. どちらともいえない	60	24.3%
合計	247	100.0%



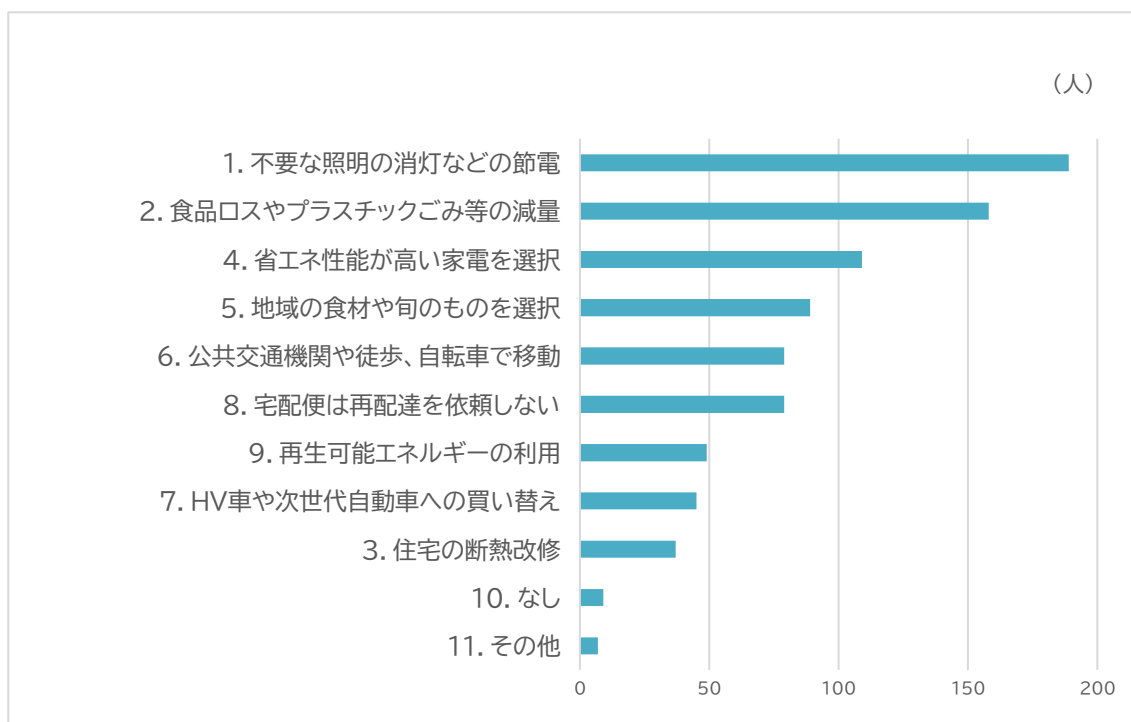
問5 問4で、その答えを選択した理由を記入してください。(抜粋)

「1. 賛同する」を選択した理由
原子力発電にはリスクを伴うので、依存しないようにすべきだと思います。
自然災害による原発事故の可能性がある限り、理想的にはCO ₂ ゼロ社会づくりにおいて原発に依存しないエネルギー社会を目指す必要があると考えるため。現実的に原発に依存しないエネルギー政策をとらざるを得ない状況になるかもしれないが。
放射能の影響が恐ろしい。
まだまだ原発の安全性が確保できるほど技術は進んでいないため、他のエネルギーを算出できる方法を確立できるように進めて行けるのではと希望的に思っています。
原発は安全な発電とは言えない。放射線廃棄物も処理方法や、処理場所も決まっていない状態で使用するのは安全ではない。
原発は事故が起これば大惨事になります。更に核のゴミ問題等解決されていない多くの問題があります。原発以外にエネルギー問題を解決する方法が無いなら別ですが、ほかの安全な解決策があると思います。
原発処理費用まで含めると結果的にコスト高であると聞かし、将来に渡って、安全性が担保できない。
原発による発電を徐々に低減させていき、太陽光発電システムなど再生可能エネルギーを増大させてCO ₂ 発生の削減を進めていくことが極めて大切であるから。
原発は日本の発電の大きな一翼を担っているが、東日本大震災のような緊急時のリスクが非常に大きいことや、放射線の問題を有していることは周知の事実である。原子力発電の使用に少しでもリスクがあるのならば、原子力発電に頼るべきではない。しかし、現実問題として今の日本には原子力発電が必要であるため、再生可能エネルギーなどの発展がないうちは、原子力発電に頼ってしまう他ないのかもしれない。
原発は、ある一面でクリーンなエネルギー社会をもたらすかもしれないが、廃棄物処理に多大な労力と年数を要することを考えると、その処理に関わることに環境に良くないことが発生するように思う。 また、一たび事故が起こった場合、甚大な被害をもたらすことを考えると、稼働している間のクリーンさだけに焦点を当てるのは、片手落ちであると思う。
「2. 賛同しない」を選択した理由
リスク分散のために一定程度必要。
現状で、自然エネルギー、再生可能エネルギー等の、環境に負担をかけないエネルギーのみで、経済を動かし、生活を支えていけるのか。不可能だと思います。自然エネルギー、再生可能エネルギー等によってのみ生活が支えられる数十年先までは、やはり原発は必要です。

<p>原発依存 0 及び脱却は、地震大国日本にとって避けられない問題としては理解している。ただし、十分策が練られていない状況を鑑みると(原発の安全稼働)に軸足を置いて検討を重ねる必要があると捉えております。コロナ対策による財源支出がまだまだ積み上がる状況下、本件によるコスト増を賄うにあたり国/地方ともに財源確保で税収をアップせざるを得ない方向となり、実質的な行政サービスの低下/削減にも直結すると思えます。</p>
<p>既存原発を活用し、小型原発に置き換えるのがベターな選択だと思います。 太陽光発電、風力発電の設置は、かえって日本全国の自然破壊につながる。 防災や光合成に寄与する山の木を切って、太陽光発電パネルを設置するのは本末転倒である。また、太陽光発電パネルのリサイクルが決められていない。 太陽光発電、風力発電はベース電源にはならないので、結局、ベース電源には、原発や高効率火力発電が必要となる。</p>
<p>実現性の確度がイメージ出来ない為、特にエネルギーの地産地消を如何に実現するのかイメージ出来ません。</p>
<p>東北の震災の原発事故で非常に深刻な災厄に見舞われましたが、安全対策をしっかりして電力エネルギーを確保するのが現実的な解決策だと思います。CO₂ネットゼロといっても、原発を停めているため、火力発電が大幅に増えてしまっているのが現実です。</p>
<p>「3. どちらともいえない」を選択した理由</p>
<p>身近な実感として湧いてこないから</p>
<p>原発ゼロを願っているが、ハードルが高いことも承知している</p>
<p>目指すのはいいと思うが、CO₂ゼロにするのは難しいのではと感じた。</p>
<p>原発をなくすことは必要だと思う。しかし、ならば、なぜ必要として依存してきたのかも疑問です。 今現在の事で考えて、原発のある生活と、ない生活。 原発が生活の何に役立っているのか、などを伝えてほしいです。 原発に依存しなかった場合の生活はどのようになるのか、具体的に掲げてもらいたい。 幼稚園の子どもでもわかるような説明、図をお願いしたいです。</p>
<p>原発は怖い、原発なしに電気の供給ができると思わないから。</p>
<p>メリットやデメリット(特にコスト、リスク)が不明だから</p>
<p>地球温暖化に対する「CO₂削減」という命題については、原発が最も効果的なエネルギーであり、原発を無くしたエネルギー政策は「高コスト高負担」となり、現実的では無い。欧米(除くドイツは原発ゼロ?)は、原発とのエネルギーミックスを上手く実現している。一時の感情で「原発ゼロ」に向かうのは現実的では無い。</p>
<p>原発の安全性について継続して研究が必要とも思えるため。</p>
<p>今あるものが無くなるということはなにが代わりになるか、どんな風に生活が変わるかなど想像が付きにくい</p>

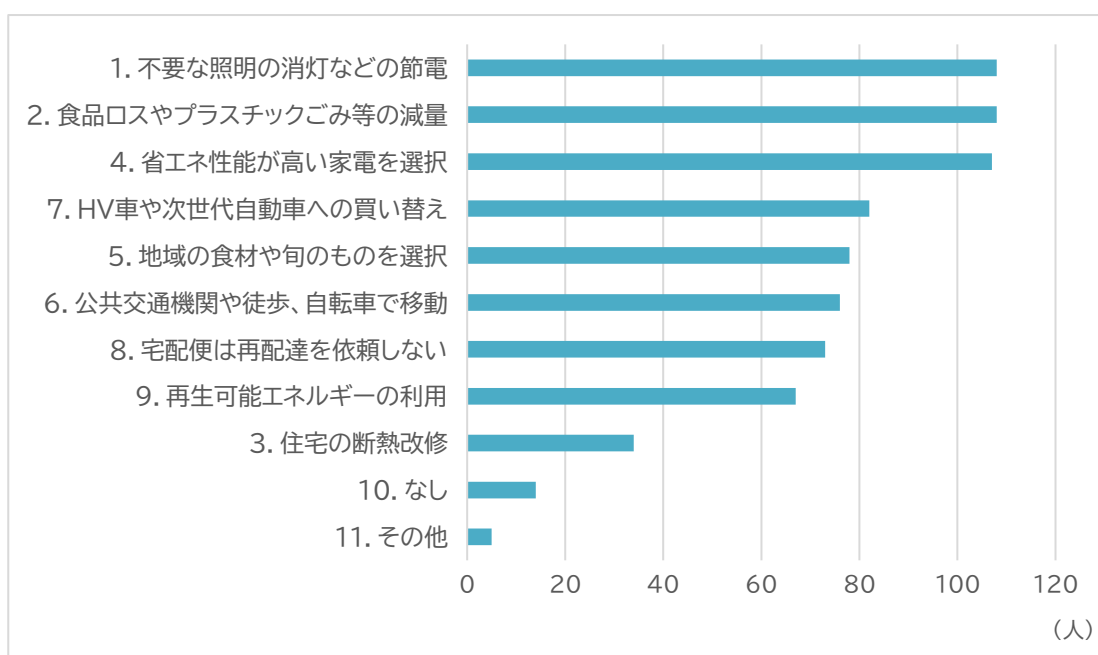
問6 あなたが、温室効果ガスを削減するために、現在、取り組んでいることはありますか。
 (「10」を選んだ場合を除き、回答チェックはいくつでも n=247)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 不要な照明の消灯などの節電	189	76.5%
2. 食品ロスやプラスチックごみ等のごみの減量	158	64.0%
3. 住宅の断熱改修	37	15.0%
4. 家電買い替え時に省エネ性能が高いものを選択	109	44.1%
5. 地域の食材や旬のものを選ぶ	89	36.0%
6. なるべく公共交通機関や徒歩、自転車で移動	79	32.0%
7. ハイブリッド車や次世代自動車(EV、PHV、PHEV、FCV)への買い替え	45	18.2%
8. 宅配便は時間指定をして必ず受け取るか、宅配ボックスを利用する等して再配達を依頼しない	79	32.0%
9. 太陽光発電など再生可能エネルギーの利用	49	19.8%
10. ない	9	3.6%
11. その他	7	2.8%



問7 あなたが、温室効果ガスを削減するために、今後、取り組もうと思うことはありますか。
 (「10」を選んだ場合を除き、回答チェックはいくつでも n=247)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 不要な照明の消灯などの節電	108	43.7%
2. 食品ロスやプラスチックごみ等のごみの減量	108	43.7%
3. 住宅の断熱改修	34	13.8%
4. 家電買い替え時に省エネ性能が高いものを選択	107	43.3%
5. 地域の食材や旬のものを選ぶ	78	31.6%
6. なるべく公共交通機関や徒歩、自転車で移動	76	30.8%
7. ハイブリッド車や次世代自動車(EV、PHV、PHEV、FCV)への買い替え	82	33.2%
8. 宅配便は時間指定をして必ず受け取るか、宅配ボックスを利用する等して再配達を依頼しない	73	29.6%
9. 太陽光発電など再生可能エネルギーの利用	67	27.1%
10. ない	14	5.7%
11. その他	5	2.0%

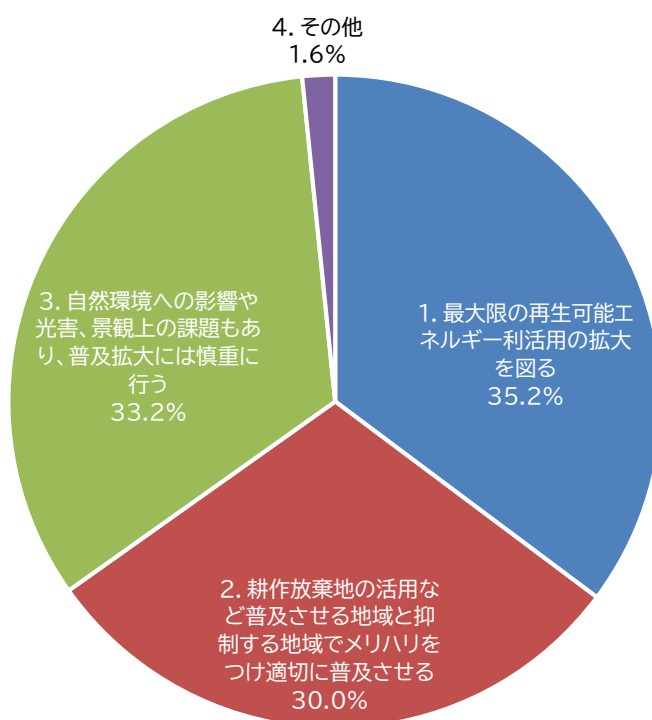


問8 CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に向けては、再生可能エネルギーを出来る限り増やしていく必要があります。再生可能エネルギーのより一層の普及拡大に関してどのようなイメージを持っていますか。(回答チェックは1つだけ n=247)

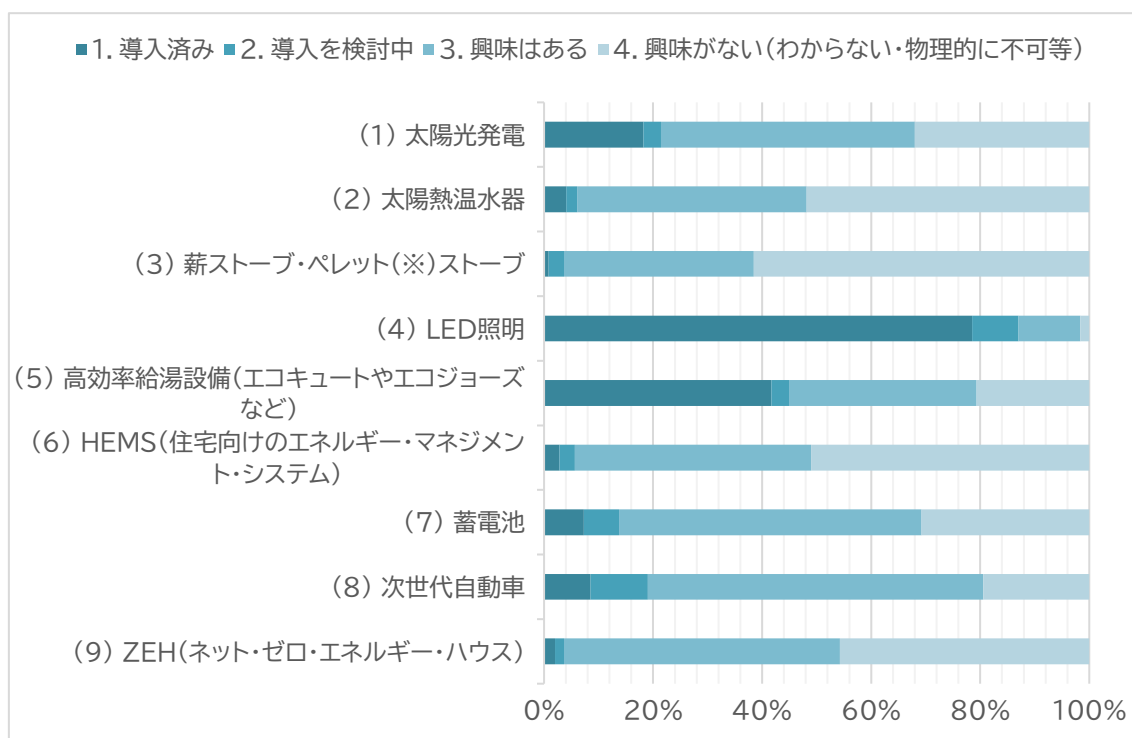
※再生可能エネルギー

化石燃料以外のエネルギー源のうち永続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。代表的な再生可能エネルギー源としては、太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス等がある。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 最大限の再生可能エネルギー利活用の拡大を図る	87	35.2%
2. 耕作放棄地の活用など普及させる地域と抑制する地域でメリハリをつけ適切に普及させる	74	30.0%
3. 自然環境への影響や光害、景観上の課題もあり、普及拡大には慎重に行う	82	33.2%
4. その他	4	1.6%
合計	247	100.0%



問9 再生可能エネルギーおよび関連機器等について、あなたは、次の(1)～(9)を導入していますか。(回答チェックはそれぞれ1つだけ n=247)



(人数内訳)

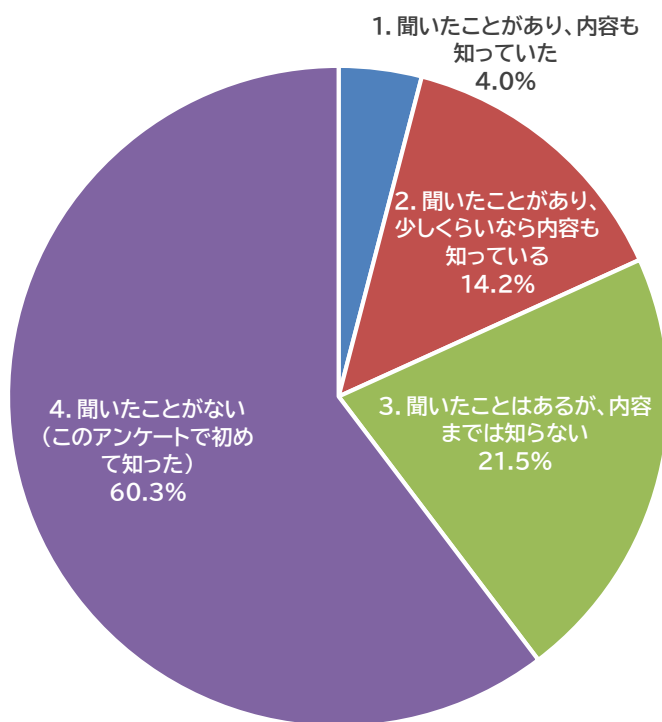
項目(機器名)	1. 導入済み	2. 導入を検討中	3. 興味はある	4. 興味がない(わからない・物理的に不可等)
(1) 太陽光発電	45	8	115	79
(2) 太陽熱温水器	10	5	104	128
(3) 薪ストーブ・ペレット(※)ストーブ	2	7	86	152
(4) LED 照明	194	21	28	4
(5) 高効率給湯設備(エコキュートやエコジョーズなど)	103	8	85	51
(6) HEMS(住宅向けのエネルギー・マネジメント・システム)	7	7	107	126
(7) 蓄電池	18	16	137	76
(8) 次世代自動車	21	26	152	48
(9) ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)	5	4	125	113

問10 滋賀県では県民の方に買い物などの身近な行動の中でCO₂削減に貢献いただくため、今年1月から「びわ湖・カーボンクレジット」と呼称し、カーボン・オフセット(※1)商品の開発や普及を進めています。この「びわ湖カーボン・クレジット」の取組(※2)をご存じでしたか。(回答チェックは1つだけ n=247)

※1 カーボン・オフセットとは 経済活動や生活などを通じて排出された二酸化炭素などの温室効果ガスのうち、どうしても削減ができない分の全部または一部を、植林や森林保全、クリーンエネルギーの推進などにより埋め合わせる、温室効果ガス排出削減を補う方法です。

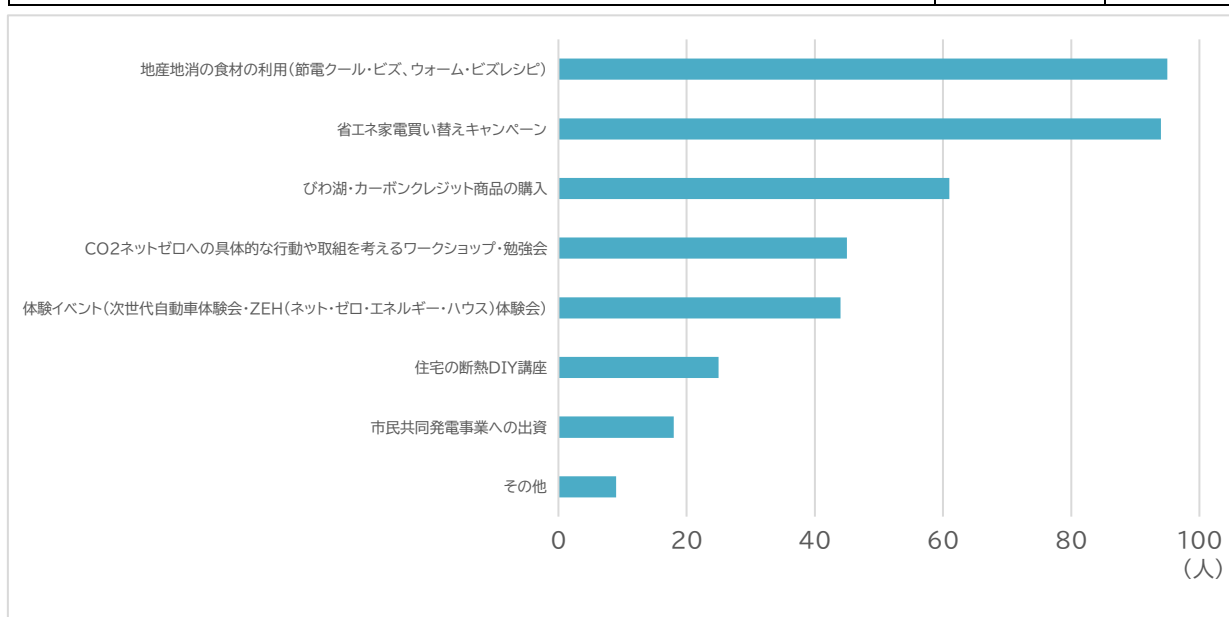
※2 「びわ湖・カーボンクレジット」の取組とは 国の J-クレジット制度に基づき認証された「本県発のカーボンクレジット付き商品」の開発や普及を進めることで、県民の方に“しが CO₂ネットゼロ”に向けた取組を身近に感じていただくことを目的に開始しました。具体的な商品としては、クレジット付きの旅行プランなどがあり、上乗せ分の金額は CO₂を吸収する水源林の保全等にあてられます。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 聞いたことがあり、内容も知っていた	10	4.0%
2. 聞いたことがあり、少しくらいなら内容も知っている	35	14.2%
3. 聞いたことはあるが、内容までは知らない	53	21.5%
4. 聞いたことがない(このアンケートで初めて知った)	149	60.3%
合計	247	100.0%



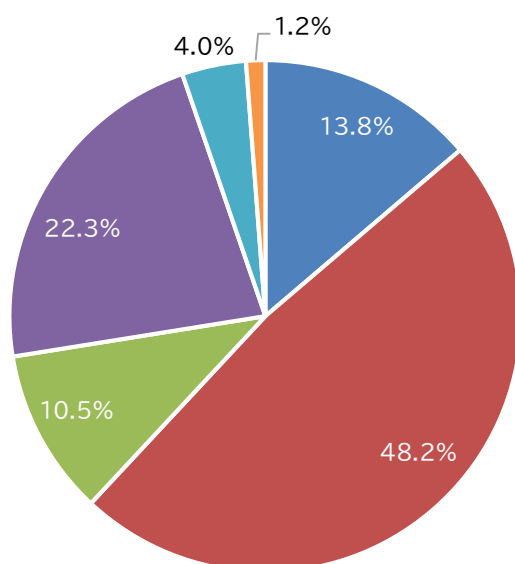
問11 しが CO₂ネットゼロムーブメントの具体的な取組として、どのようなことに参加したい
 と思いますか。(回答チェックは2つまで n=247)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 省エネ家電買い替えキャンペーン	94	38.1%
2. 市民共同発電事業への出資	18	7.3%
3. びわ湖・カーボンプレジット商品の購入	61	24.7%
4. 住宅の断熱 DIY 講座	25	10.1%
5. 地産地消の食材の利用(節電クール・ビズ、ウォーム・ビズレシピ)	95	38.5%
6. 体験イベント(次世代自動車体験会・ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)体験会)	44	17.8%
7. CO ₂ ネットゼロへの具体的な行動や取組を考えるワークショップ・勉強会	45	18.2%
8. その他	9	3.6%



問12 昨今、県内でも、大雨や猛暑など気候変動の影響が顕著に現れています。熱中症注意情報、浸水リスク情報や土砂災害警戒情報等は十分に得られていますか。また、備えはできていますか。あなたの状況に、最も近いのはどれですか。(回答チェックは1つだけ n=247)

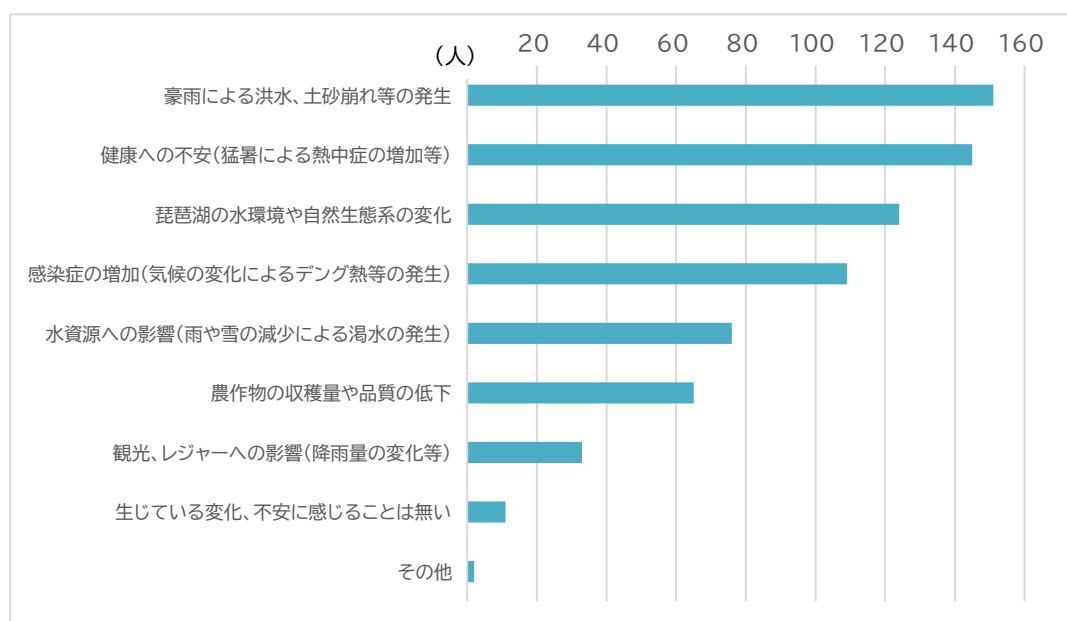
項目	人数(人)	割合(%)
1. 情報は十分に得られていて、備え(適応策)ができている	34	13.8%
2. 情報は十分に得られているが、備え(適応策)はあまりできていない	119	48.2%
3. 情報が不足していると感じるが、備え(適応策)ができている	26	10.5%
4. 情報が不足しているため、備え(適応策)があまりできていない	55	22.3%
5. 情報収集をしていない(気候変動やそのリスクを感じる事が無い)	10	4.0%
6. その他	3	1.2%
合計	247	100.0%



- 1. 情報は十分に得られていて、備え(適応策)ができている
- 2. 情報は十分に得られているが、備え(適応策)はあまりできていない
- 3. 情報が不足していると感じるが、備え(適応策)ができている
- 4. 情報が不足しているため、備え(適応策)があまりできていない
- 5. 情報収集をしていない(気候変動やそのリスクを感じる事が無い)
- 6. その他

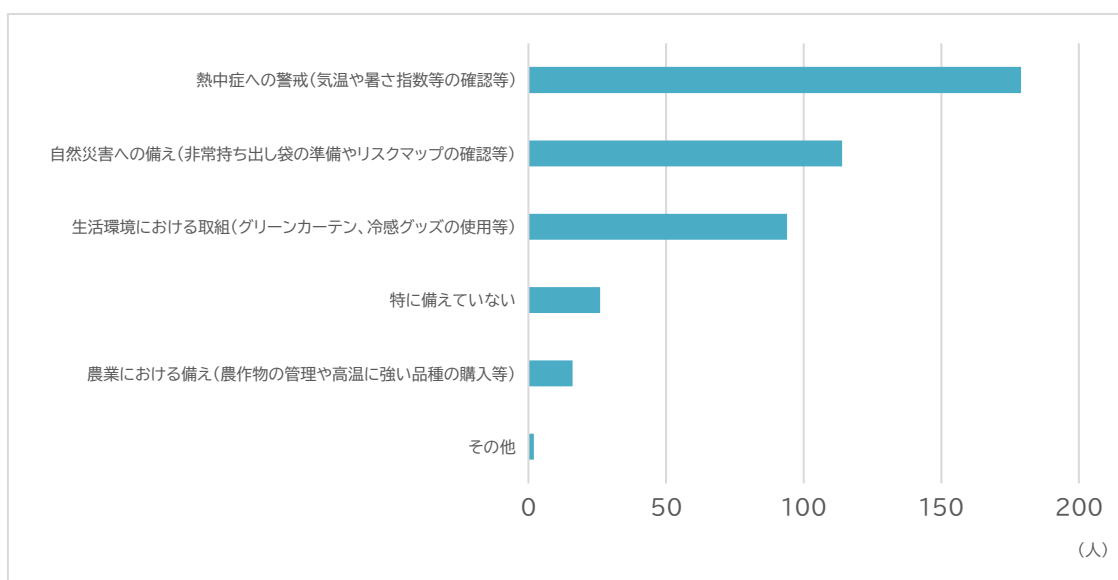
問13 次のうち、あなたの身の回りで生じていると感じる変化、不安に感じることはありますか。(「8」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=247)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 農作物の収穫量や品質の低下	64	25.9%
2. 琵琶湖の水環境や自然生態系の変化	122	49.4%
3. 水資源への影響(雨や雪の減少による渇水の発生)	75	30.4%
4. 豪雨による洪水、土砂崩れ等の発生	151	61.1%
5. 健康への不安(猛暑による熱中症の増加等)	144	58.3%
6. 感染症の増加(気候の変化によるデング熱等の発生)	109	44.1%
7. 観光、レジャーへの影響(降雨量の変化等)	33	13.4%
8. 生じている変化、不安に感じることは無い	11	4.5%
9. その他	2	0.8%



問14 あなたが、気候変動の被害を回避するために取り組んでいることはありますか。(「5」を選択した場合を除き、回答チェックはいくつでも n=247)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 農業における備え(農作物の管理や高温に強い品種の購入等)	16	6.5%
2. 自然災害への備え(非常持ち出し袋の準備やリスクマップの確認等)	111	44.9%
3. 熱中症への警戒(気温や暑さ指数等の確認等)	177	71.7%
4. 生活環境における取組(グリーンカーテン、冷感グッズの使用等)	96	38.9%
5. 特に備えていない	28	11.3%
6. その他	3	1.2%



問15 その他、本県の温暖化対策やエネルギー政策など、CO₂ネットゼロ社会づくりについて御意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

■個別施策等に対するご意見
<p>とにかく焦眉の問題なため、真剣に取り組んでいただきたい。生ごみの堆肥化は、家庭に任せず、行政主導で行うべき。</p> <p>また、脱プラスチックにむけて、レジ袋の廃止やマイボトルの給水所の整備などをしていただきたい(京都府亀岡市の事例)</p> <p>また、温暖化対策や、エネルギー政策など、環境負荷を少なくする取り組みは、経済価値を生み出さないため、なかなか職業にはなりにくいものです。そのため、市民の環境活動を維持させるために、行政が支える仕組みを積極的に作って欲しい。</p>
<p>環境県として、一般家庭のCO₂排出抑制となる機器の購入する補助金の種類を増やしてほしい。何か、他の県と変わらず横並びで滋賀県の良さが出ていないと思います。</p>
<p>個人で取り組めることは限られているし、効果が判りにくい。例えばマイバッグ持参に協賛して実施しているが、効果の程度はごくわずかと思われるし、実際の発表も目にしたことはない。半年ごとでもいいから、効果を発表してもらえたら、取り組みの意欲がわいてくる。</p>
<p>川が多いので、その水の利用で涼を取るような取り組みをしたら良いと思う。道路にミストを撒くとか。</p>
<p>全ての対策で原資は必要なので、温暖化対策と言いながらお金を生む対策の一つではないかと思しますので滋賀県にお金が落ちるような政策を実施してほしい</p>
<p>近畿の水源地としての琵琶湖を生かし、利用した政策を実行していただきたい。</p> <p>特に、山間部や農村地域の有効利用を進めていただきたい。</p>
<p>傾斜地へのメガソーラー発電所設置を見かけることがありますが、かけ崩れしないか少し心配するケースを目にします。</p> <p>風力発電は各地で景観を壊すとのことで反対運動が起こっているようです。確かにあんなに大きな目立つものが設置されることには不安を感じるでしょう。その不安を超えたメリットを感じ取ることができれば賛成するのでしょうか。発電所の運命としてはやはり周辺住民との折り合いだと思います。発電所周辺住民もメリットが受けられる政策を期待します。</p>
<p>今回の案件に当てはまるか、どうかかわからないが、どこ行くにも車がなくて不便で困る。</p> <p>車中心の町になっていて、生活しにくい。高齢者になると、誰にも頼れない。自家用車に頼れなくてもいい町になることで、環境に優しくなれるのではないかといつも思う。</p>
■原子力発電に関すること
<p>若狭湾の原発に対し警戒していただいていることに感謝している。滋賀県北部の県境の山が低いと、原発に事故があれば、滋賀県に放射能が流れ込んで汚染されることを重視して、原発の廃止に向けて取り組んでいただきたい。</p>
<p>原発立地隣接県として何か起これば必ず甚大な被害をうける滋賀として、CO₂削減イコール原発依存という安易な国の策定にはこれからも強く反対の声をあげ続けてほしい。</p>
<p>問5でも記入しましたが、原発が今の生活の中でどのような役割を果たしているのか、原発は危険だとか怖いなどの情報は容易く入ってきますが、では、原発のメリットも伝えるべきだと思います。</p> <p>子ども達は、原発のしくみを全く知りません。聞かれても、大人である私も答えられません。なぜなら、身近にないですし、どのような働き、意味、経緯で依存しているのかを教わってきませんでした。今でも知りません。これからを担う子ども達に、メリットデメリットを分かりやすく伝えるべきだと思います。そのような機会を教育の場で教えてもらいたい。</p> <p>人間の善悪で判断するのであれば、危険なものに依存して生きている、作ったというのはおかしな話ではないでしょうか。</p>

基本理念には、大いに賛同するところですが、現実問題として、CO₂を排出しないエネルギー源を考えた場合、原発は有効だと思います。ただ、原発には大きな危機管理が必要で、その点は充分体制や設備が必要です。東北の災害では、電源装置が、海水に浸るとわかっている場所に設置されていたことが問題であって、聞くところによると、建設当時、日本の設計者たちが反対していたにもかかわらず、アメリカの製造メーカー側からの考えで設置に至ったと知りました。今現在、CO₂の点だけを最優先するのであれば、ほかに代わるエネルギー源はないのでは、と、思っています。この先、技術革新が起こり、原発に代わるエネルギー源が開発されることを祈るばかりです。

■太陽光発電に関するご意見

CO₂ネットゼロ社会の言葉を知っている人たちが自分の周囲には、少ない。(少子高齢化)特に年金生活者は、関心が無い。琵琶湖湖上を利用した大規模太陽光や風力施設の企画検討を。

エネルギー対策として太陽光発電や蓄電池を推進しているにも関わらず、売電料金を大幅値下げしたり、蓄電池の補助金がなかったり、制度と推進内容が真逆に走っている。こんな政策では多くの人が環境対策に協力しない。

売電料金の値段を下げず、発電できる＝得 という図式を定着させたり、消費者側の意識を変えさせることが大事。理想だけで対策を推進できるのは一部の富裕層だけだと思う。

また、前述しましたが、対策前、対策後の環境変化を「わかりやすく提示する」ということが大事。効果もわからないのに対策することはできない。

コロナ禍で外出が減少し、半年ぶりに実家の墓掃除に出かけると、あつたはずのレストランや会社が無くなっていて更地になっている所や、太陽光発電のパネルが敷き詰められている所が増えているのに驚きます。

コロナの影響もあつての事だとは思いますが あの大きな建物が無くなり、一面黒光のパネルは不気味感もありますが温暖化対策にはもっともっと この光景が増えるのだろうか～との思いは持っていました。

ただ 設置費用が設置時に必要なければ、すぐにでも取り付けたいと思っている人は多いと思う。

■県による情報発信についてのご意見

県レベルによる CO₂ネットゼロ社会づくりにはかなり限界もあり、まずは国が公法で縛りをしっかりかけることが必要である。県としては水力発電可能な場所を再点検したり、LED照明器具への取替を奨励したり、燃料電池車への優遇措置を進めたり、ガソリンや軽油の消費を減らすようにPRしたり、地場産の食品を率先して買い求めるよう県民に対して注意を喚起するなどの対策を実施して欲しい。

学校や公民館などに県民の取り組みの啓発の講習などが行え、情報を得る機会を設けていただければとおもいます。

1人1人のちょっとした心がけや取り組みが県民全体として考えたとき大きな効果が得られると思います。

滋賀県の温暖化対策やエネルギー政策をもっと県民にアピールしてほしい。

気候の変動は、皆肌で感じているはずである。夏の高温、冬の降雪量の減少、頻繁な豪雨の発現など、昔とは異なった気象の数々である。

県民、国民としてできる身近なところから取り組んでいきたいので、ぜひ、暮らしを見直す「チェックシート」の配布、SNSや講演会を通じての啓発、具体的にどう行動すればよいかのアイデアの提供など、一人ひとりに届く政策をお願いしたい。地球規模で温暖化対策に取り組む必要があると考えている。小さな一歩を踏み出せるきっかけづくりをお願いしたい。

自分のできることを実践していきたいと思います。家庭でできる取組は、分かりやすく参考になります。でも今まで目にしたこともなく、初めて見ました。また今回の政策のことも初めて知りました。どういう形で周知されていたのでしょうか？とても大事な政策だと思いますので、県民への周知をもっと図る必要があると思います。市町や自治会を通して、全戸配布されてもいいのではと思います。

■温暖化対策やCO₂ネットゼロへの流れに関する検証を求めるご意見

CO₂ネットゼロ社会づくりが、正しいかどうかは分からない。
物事には、メリットとデメリットがあるので、単純に一方向に向かう施策は好ましいとは思わない。
人間が生存するのに必要な酸素の確保が重要だと思います。

CO₂ネットフリーの流れが本当に妥当か常に評価、検証しながら進めて頂きたいと思います。商業的に変なスキーム、プラットフォームに踊らされて負担だけして、実利がないという結末も見たくないです。進め方が正しいか判明まで時間が掛かる可能性も大いに感じますが、施策に対して常に評価、検証を忘れずに実行をお願いします。

■CO₂ネットゼロは難しいとのご意見

温暖化の対応は必要と思いますがエネルギー源を変えて行くのは難しいと思います。
必要性は理解できますが、いざ、自分の事になると中々実施できないことが多くなると思います。
温暖化対策にしても、エネルギー政策などは、個人で出来る事は限られていると思います。もちろんプラごみを減らす、必要のない電気、水は減らすのは当然としても、それが全体の活動にどの程度貢献しているのかも不明です。貢献度合いは横に置いて節電・節水・食品ロス低減、などは当然の事として取り組むのは大前提ですが。